



みらいっうしん

6月号

2021年6月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

信頼関係と園生活

紫陽花が美しく咲く季節となりました。子ども達も、園生活に大分慣れ、表情や行動が豊かになってきました。朝の正門の出迎えでは、「園長先生おはよう！」と挨拶した後にタッチするというコミュニケーションをとるお子さんも多くなり、少しずつ心を開いてくれるようになったのかな？と、嬉しい気持ちと保育者として、毎日の積み重ねの大切さを痛感しています。6月は、梅雨入りしますと、毎日じめじめする日が続く、園庭での遊びが少なくなりますので、「お外であそびたいよー」「好きな遊びが出来ないよー」と不満やイライラ感が生れ易くなり、子ども達の心も曇り空に…。少しでも、子ども達が晴れやかな気持ちで室内遊びが楽しめるよう、環境づくりの工夫をしていきたいと思ひます。

さて、進級、入園から2か月が経ち、それぞれの好きなことや居場所を見つけ始めている姿が見られます。一見落ち着いたかのように感じられますが、この時期の子ども達の心も、紫陽花の花が、繊細に色代わりするかの如く、「ありのままの私を愛してくれる人なの？」「大切に対応してくれる人かな？」と、周囲の大人の何気ない行動や言葉かけによって、心が揺れ動きます。また、友達の間でも、自分の気持ちを表現する際に、けんかやイライラが多くなりお互いを確かめ合い、梅雨空のように心の葛藤が始まるため、「心の安定」がとても大切になります。そして、帰宅したお子さんの様子が少しでも情緒不安定であれば、保護者の方の立場からは、『家の子、ちゃんとみてもらっているの？』『園で何かあったの？』と心配になるのは、当然のことです。常日頃から私たち保育者は、子どものことを第一に考えて、「どうして、この子は、今こういう行動をするのか、よく子どもの心の奥を見ましよう。自分から歩み寄って保育をしましょう。保護者の方にも丁寧な対応をしましょう。」と、職員同士声を掛け合い、一日の反省をして次の保育に反映できるようにしています。お互いの信頼関係の構築は、一朝一夕にはできるものではありませんが、子どもを大切に思う気持ちは、誰でも一緒だと思いますので、子どもにとって、「いつも声をかけてくれる」「話を真剣に聞いてくれる」「一緒に笑ってくれる」「抱っこしてくれる」「手をつないでくれる」など、大人の積極的な態度、共感やスキンシップを根気よく続けることが肝心です。お子さんが、大好きな先生や友達のことをご家庭でも話題にし、園に喜んで登園する姿やお子さんの成長が感じられることを心から祈ります。どうぞご家庭でもお子さんの一番の理解者でいただき、紫陽花の花言葉には「強い絆で結ばれる」という意味もありますので、職員一同も、お子さんと保護者との信頼関係に「強い絆」を結んでいきたいと思ひます。今後も、ご理解ご協力をお願いいたします。また、コロナ禍で、さらに雨の多い蒸し暑い日が続きますので、お身体には十分ご自愛ください。

勝浦



遊具用に板を切り、やすり掛けを子ども達も行いました。

